

令和3年度 上田市立塩尻小学校 学校自己評価シート (3月最終報告)

学校教育目標	めざす子どもの姿 (中期的目標)	総合評価			
(1)思いやりのある子供 (やさしさ) (2)じょうぶな子供 (たくましさ) (3)よく考える子供 (かしこさ) (4)最後までやりぬく 子供 (ねばり強さ)	(1) 人の気持ちがわかり、思いやりのある言動がとれる子供 (2) 生活リズムを整え、病気やけがに気をつけて生活できる子供 (3) 進んで学習に取り組み、自分の考えを表現しようとする子供 (4) 本気で取り組み、粘り強くやり抜く子供	今年度もコロナ禍のため、見合わせた学習活動もあったが、学習活動の内容や取り組み方を見直したり、PTAの協力をあおいで感染対策を徹底したりことで、多くの学校行事や学習活動を実施することができた。今年度は児童会活動を中心に、他学年との交流の機会を増やし、活動を充実させることができた。			
	今年度の重点目標		成果と課題	評価	改善策・向上策
	1	支え合う学級づくり	学習活動や学級活動の中で、友と考え合ったり一緒に活動したりする場づくりを大切にし、友と協力する力を培った。	A	来年度も年2回のQ-Uを実施し、学級経営に生かす。達成感や充実感が味わえたり、自分の頑張りや友達によさに目を向けたりすることができるような協働的活動を充実させていく。
	2	学び合う授業づくり	授業のねらいを明確に示し、学びの振り返りを授業の中に位置付けることや、協働的な学び合い学習を大切にしたい。	A	学習活動の振り返りをしっかり行い、次への課題や意欲が持てるように支援していく。
3	高め合う活動づくり	児童会活動を中心にした異学年交流や、学級活動での協働の学びを大切にしたい、相手を思いやる気持ちや共に作り上げる喜びを感じる事ができた。	B	小規模校のため異学年交流を大切に位置付けていく。学級内でも協働的な学びの場を増やしていく。	

領域	重点	評価項目	評価の観点	成果と課題	評価	改善策・向上策
学校教育	支え合う学級	あいさつの充実	児童会の挨拶運動を中心に、来校者や地域の中でも進んであいさつする子どもを増やせたか。	児童会活動のあいさつ運動が位置づいており、職員からも積極的に挨拶をすることで、多くの子どもが元気に挨拶することができている。	A	職員からの積極的な声かけや、児童会のあいさつ運動を継続し、自分から挨拶ができる子どもを育てていく。地域と連携し子ども達を見守り育てていく体制づくり。
		認め合う関係づくり	自分と友達との違いや良さに気づき、よりよい関係を築こうとする態度を育てるために、力を合わせて取り組んだり、課題を解決したりする経験を増やす活動場面や場づくりを進めることができたか。	学級活動や学習場面での協働的な学びを工夫しながら、互いを認めあう学級づくりを進めた。	A	クロムブックも活用しながら、友の考えや思いから学んだり、学びの成果を共有したりする活動を大切にしたい。
		児童把握と個に応じた支援	Q-U検査やアンケートで児童の状況や実態を把握し、必要に応じて個別の指導計画を作成しながら全職員で連携して支援にあたる事ができたか。	Q-U検査の結果を職員研修で共有したり、個別の支援計画を作成したりしながら、必要に応じて複数教員で子ども達の支援を行ってきた。	A	検査の結果を生かして児童の内面理解に努め、必要に応じてチームで支援の手立てを検討し個別支援にあたっていく。

	学び合う授業	共に学びあうための構えをつくる	仲間と共に深める学習に向けて、はっきり話す、話し手を見て最後まで話を聞く姿勢を大切に指導することができたか。	授業では、友や先生の話最後まで聞くことや、きちんと返事をするなどの学習ルールを大切に指導してきた。	A	相手の話を最後まできちんと聞く指導の継続を大切にし、安心して発言できる学級の雰囲気づくりに努める。
		自律して学ぶ力づくり	「つむぐ」等を活用し家庭学習の定着を図り、発達段階に応じて自主学習に取り組めるよう指導支援できたか。	「つむぐ」で翌日の授業を確認し、担任が毎日家庭学習や日記に目を通すことで、家庭学習への取り組み状況を確認してきた。	A	翌日の授業内容を「つむぐ」で確認させ、家庭での予習や復習につなげることができるよう指導していく。
		「できた」「分かった」と実感できる授業	子供たちが自ら追究していくためのねらいや学習課題、ねらいにそった見返しや定着を設定できたか。	学習問題や学習課題を明確にし、1時間のねらいにせまるための授業づくりを意識して取り組んできた。また、ICT機器を意見交換の場などで利用した。	A	考えを共有したり深めたりする場面でのICT機器の活用をさらに研究していく。
	高め合う活動	自主性が伸びる活動づくり	個に応じた適切なめあてを設定し、目標に向けて粘り強く取り組む姿勢を指導・支援することができたか。	3学期の目標を持たせ、個に応じた役割や目標に向かって取り組む姿を支援してきた。5年生は児童会引継ぎに向けて、一人一人が役割を持ち、学校の柱となる自覚を高めることができた。	A	個に応じた目標設定、自主的な取り組みを支援するための教師による個別支援を丁寧に行っていく。友との協働的な取り組みにより、支えあう集団作りを大切にしていく。
		児童による協働の学び	異学年との交流の場を設定し、互いの良さ、協働することのよさを実感できる活動づくりができたか。	児童会フェスティバルでは、学年を越えたチームを作り活動に取り組んだ。高学年が低学年をやさしくリードすることができた。	B	学年を越えて、子ども達が授業や行事の準備・運営とともに力を合わせて活動できる機会を工夫して増やしていきたい。
		地域との学び	地域資源（人材・題材等）を活かして、クラブ活動・生活科・総合的な学習を構想し取り組むことができたか。	クラブ活動、筒けんづくり、養蚕、米作り、ホタルの飼育で、地域の方の力をお借りして活動を行うことができた。	B	来年度の総合的な学習を充実させていくために、学校運営協議委員さんとも相談しながら、地域との連携の形を工夫していく。
学校運営	地域との連携	情報の発信	学校、学年、学級だより、学校ホームページ等を通して、学校での児童の学びを保護者や地域へ発信することができたか。	学校だよりやホームページ、学級だよりにより活動の様子や子ども達の感想を掲載し、発信してきた。また、ICT支援員と連携し、ICT活用授業の記事を意識して増やした。	B	学校からのおたよりやホームページの内容をさらに充実させることで学校の取り組みを発信する。公開できなかった行事の様子を地域の方にも見ていただけるようなICTの活用を模索する。
		PTA や地域の方々との連携	PTA や地域の方々との連携し、学校行事等の様々な活動を充実させることができたか。	運動会、音楽会など、PTA役員さんの協力を得ながら、感染対策を講じて実施することができた。授業参観は分散参観を取り入れ、待ち時間に児童の活動の映像を体育館で放映するなど工夫した。最後の参観日は、オンラインを使って授業のまとめを保護者に発信した。	A	今後の学校行事でも、PTAと連携して安全対策を講じながら実施していきたい。来年度は、休校時や授業参観中止の場合を想定し、オンラインで発信できるようにするための周辺機器を、順次そろえていきたい。

○評価基準 A・・・達成できた B・・・おおむね達成できた C・・・やや達成できた D・・・達成できなかった